



博物館ニュース「SHŪ」 NO. 40

“SHU” Tamagawa University Education Museum News

2013年3月20日

玉川大學教育博物館



目次

天皇皇后両陛下下行幸啓……………2

新収資料紹介・
資料をご寄贈いただきました…3

報告……………4

当館の教育活動・
質問です……………5

開館カレンダー・
利用案内……………6

本居宣長像（部分）

村田嘉言画 近藤芳樹賛 絹本著色 掛軸装
114.3 × 41.4cm 江戸時代後期～明治時代

教科書などの挿絵でもおなじみの、独特の形の服を着て座る、本居宣長（1730-1801）の肖像画の模写です。本像の原作は、「本居宣長六十一歳自画自賛像」で、上部に有名な山桜の和歌が自賛されています。これを、歌人で絵も良くした村田嘉言（生年不詳-1849）が写したもので、模写が繰り返されたためか、原作から容貌がやや変化しています。上部には、宣長の孫弟子にあたる国学者近藤芳樹（1801-1890）による、本歌取りの和歌賛「山さくら根にかへりてもにほふか いかなるはなのちりをつぎけむ」があり、偉大な先人に対する、敬意をもって作られた肖像画です。

天皇皇后両陛下下行幸啓

企画展「石に描かれた鳥たち—ジョン・グールドの鳥類図譜」をご覧

天皇皇后両陛下は、2013年1月14日、企画展「石に描かれた鳥たち—ジョン・グールドの鳥類図譜」をご覧のため、雪の降る中、玉川大学へ行幸啓になりました。

小原芳明学長は、両陛下に歓迎のご挨拶を申し上げた後、館内へのご先導ご案内いたしました。館内では、当館の柿崎博孝教授が、ジョン・グールドの鳥類図譜についてご説明いたしました。両陛下は熱心にアジア・イギリス・ニューギニア及びパプア諸島の鳥類図譜をご覧になり、案内役を務めた黒田清子当館外来研究員に、鳥類図譜の描画法や鳥の生息状況についてご質問されました。今回の展示について天皇陛下は、外国訪問された際にご覧になった鳥の印象をお話になられたり、絶滅した鳥にもご関心を寄せられていました。また両陛下は、当館でジョン・グールドの鳥類図譜の調査研究を続けてきた黒田外来研究員の解説を聞きながら、ハチドリ科鳥類図譜も間近にご覧になりました。そこでは、光輝く羽の色彩を再現するために、グールドが考案した金箔貼り着彩の鳥を、何度も角度を変えてご鑑賞されました。各図譜ご見学の後、両陛下は館内の玉川学園創立者小原國芳に関する展示のコーナーもご覧になり、小原学長による学園創立期の様子や、学生・生徒により多くの夢を持つとの意味での「一面多い“夢”」の字の話に耳を傾けられました。

当館ご覧の次に、両陛下は Future Sci Tech Lab 内の植物工場研究施設に移動され、LEDを光源とした未来型農業技術の研究をご視察になりました。

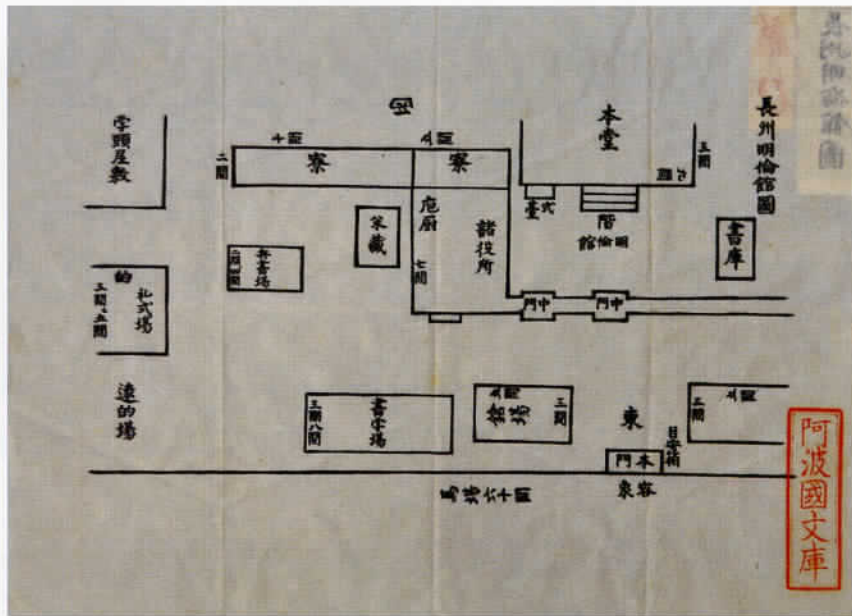
このたび天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いだことは、当館はもちろん玉川大学・玉川学園全体にとって、学校の歴史に残る大変名誉なことです。



小原芳明学長による歓迎のご挨拶



ハチドリ科鳥類図譜を親しくご鑑賞



教育を行う上で、校地・校舎等のハードの部分を整えることは、重要な要素といえるでしょう。本資料は、江戸時代の藩校、津藩有造館、岡山藩国学（学校）、会津藩日新館、米沢藩興讓館、長州藩明倫館の図各1枚と、藩名の記載がない（おそらく福井藩）明道館の図3枚組の、計8枚の図面です。各図に徳島藩の「阿波国文庫」の蔵書印が捺されており、作者は不詳ですが、徳島藩校長久館の参考のために集めた、各藩校の図面と想像されます。また、藩校毎に「ゆ〜ひ」とイロハ順の整理記号がつき、本来は前後の記号に該当する、より多くの藩校の図があった可能性も考えられます。

8図の中で、上の写真は「長州明倫館図」です。これは、同館が1849（嘉永2）年に移転拡張する以前、萩城三の曲輪（堀内）に所在した頃の様子を示しており、本堂（聖廟）、文武の教場、事務所や寮などの配置がわかります。吉田松陰（1830-1859）が、わずか10歳で家学の兵学を教授したのも、この図にある時代の明倫館でのことです。中央やや左の「兵書場」が、その教室であったと思われます。図の製作時期は、移転前の明倫館の図と、1855（安政2）年設立の福井藩校明道館の図が含まれることから、江戸時代末期と考えるのが妥当かと思えます。（菅野和郎）

和紙に墨書（一部著彩） 20.2 × 27.8 cm（長州明倫館図）他 江戸時代末期頃か

資料をご寄贈いただきました（順不同・敬称略 2012年7月～12月）

- | | |
|---------------------|------------------|
| 東 日出男 同窓会報等 一括 | 鈴木 嶺志 同窓会報等 23点 |
| 板倉加奈子 原智恵子肖像写真 2点 | 宮崎 豊茂 教育史関係資料 2点 |
| 哈爾濱学院連絡所 同窓会報 1点 | 成井 稔 復刻教科書等 7点 |
| 首藤 元男 同窓会報 71点 | 小澤 秀樹 教育史関係資料 1点 |
| 中村 庸子 雑誌『赤い鳥』 37点 | 河合 明博 同窓会報等 4点 |
| 新義州中学校同窓会 絵葉書等 23点 | 大石美恵子 同窓会報 4点 |
| 旅順第一小学校白玉会 絵葉書等 26点 | 黒萩 泰弘 同窓会報 2点 |
| 貴志 豊和 校友会報 2点 | 丹 直清 同窓会報等 一括 |

ありがとうございました

報 告

行幸啓

2頁に詳報の通り、天皇皇后両陛下には、2013年1月14日玉川大学に行幸啓、当館で開催中の企画展「石に描かれた鳥たち—ジョン・グールドの鳥類図譜」を、ご覧にならせられました。

秋篠宮同妃両殿下台臨

秋篠宮同妃両殿下には、2013年1月22日に当館へ台臨、企画展をご視察になられました。公益財団法人山階鳥類研究所の総裁をお務めの秋篠宮殿下は、ご自身も専門に研究をされておられることから、鳥類について造詣が深く、本の中の鳥の図版やパネル展示された図版を熱心に、時間をかけてご覧になられました。ご説明にあたった当館の柿崎博孝教授及び黒田清子外来研究員にも、ご専門の立場から種々のご教示やお尋ねがありました。



秋篠宮同妃両殿下台臨（1月22日）

企画展

2012年11月5日から開催の企画展「石に描かれた鳥たち—ジョン・グールドの鳥類図譜」は、2013年1月27日で終了予定のところ、好評につき3月24日まで会期を延長しました。グールドが制作した10シリーズの図譜全40巻39冊を、前後2期に分けて展示し、なるべく多くの実物の鳥の図をご覧いただけるよう、原則として毎週金曜日の閉館後に、図譜のページ替えを行いました。

会期中に計6回、担当学芸員によるギャラリートークを実施しました。

本展にあわせ、図録（A4版224頁）と、図譜から図柄をとった新作の絵葉書6種を作製しました。

博物館実習

通信教育部「夏期スクーリングⅡ期」 21名
2012年8月10日～16日
通学課程「博物館実習（館務実習）」 53名
2012年8月6日～9月19日の間
4班各3日間
通信教育部「学芸員スクーリング」 33名
2013年2月7日～12日

資料の貸し出し

・さいたま文学館（埼玉）「—没後70年—中島敦が見つめた世界」（9/29～12/2）
南洋庁『公学校本科国語読本』等 13点

人の動き

館長の玉井日出夫（芸術学部教授）は、2012年11月30日付けで退職しました。このため年度内は、理事長（学長）の小原芳明が館長事務取扱を兼務することになりました。

統計（2012年4月～9月）

本館

開館日数 116日 入館者数 3745名

収集

〔資料〕	日本教育史	109件
〔図書〕	和書 301冊	洋書 0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	33冊
	洋雑誌	15冊

分室

利用者	0名	資料提供	0件
収集	玉川学園関係		80件

当館の教育活動 和本ハンズオン体験で学ぶ江戸時代と明治維新

玉川学園は幼稚部から大学まである総合学園です。そのため大学附置機関である当館も現場の教員と協力しながら、小学生や中学生を対象にした様々な教育活動を行っています。今回はこうした博物館教育プログラムの一つである「和本ハンズオン体験で学ぶ江戸時代と明治維新」を紹介致します。

当館では、例年秋に小学6年生を対象にした杉田玄白『解体新書』のハンズオン体験が行われていました。これは小学6年「社会」の授業の「江戸時代の文化」の単元にあわせた活動で、展示見学や杉田玄白『解体新書』のハンズオン体験を通して江戸時代の学問や文化を学ぶ教育プログラムです。

しかしながら、今年は趣向を変えて博物館スタッフが小学6年生の教室に出張して「出前授業」を行いました。また、現場の教員と相談して、『解体新書』ばかりでなく、明治維新の頃の修身や歴史の教科書のハンズオン体験も行って、児童の歴史に対する興味を高める試みを致しました。実物の資料に触れる体



明治の教科書を手にしての学習

験は児童たちにとって、とても新鮮な体験であったようで、真剣に授業に取り組んでいました。

もちろん、このプログラムはハンズオン体験だけで終わりというものではなく、児童は配布されたワークシートにこの授業を通して感じたことや考えたことをまとめ、本当の意味で「学習する」ことの楽しさや喜びをつかんでいきます。

(宇野慶)

質問です

Q. 展覧会の期間や時期は、どのように決めるのですか？

A. 一般論としてお答えします。展覧会等の行事計画は、前年度に博物館内や関係機関でよく相談して決定し、年度初めに公表するのが普通です。展覧会を企画する学芸員としては、沢山の方に見てもらえるよう、できれば会期を長くしたいと思っています。一方、長期の展示は貴重な資料を傷めることにもつながります。そのため褪色しやすい重要文化財などは、年間公開日数が30日以内に制限されています。資料を将来の人たちにも同じような状態で見ってもらうために、資料が受けるダメージについても考慮し、会期を決めなければなりません。また、外部から資料を借用

して展示する場合、予め期間を決めてお借りしますから、急な変更は難しいですし、仮にその期間を延ばせても、借用料や損害保険料の負担も増えることでしょう。さらに同じ会場ですぐ次の展覧会の予定が入っている場合、それを楽しみにしているお客様もいますので、開催中の展覧会が好評でも、実際にはおいそれと会期延長はできないのです。

展覧会を開催する時期は、資料を移動させる上で温度や湿度など、空気の状態による負担が少なく、お客様も出かけやすい季節として、暖かい春と爽やかな秋が適しています。この時期に準備や予算的な面で力を入れた、年間の目玉となる展覧会を開催する博物館が多いようです。

(菅野和郎)

2013年度上半期 開館カレンダー

2013年 4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

休館日

第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開

※この予定は、電力事情、年間学事計画等により変更することがあります。
 詳細は当館ホームページをご覧ください、電話等にてお問い合わせください。



利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間
 (日曜日・土曜日及び祝休日に大学の通常授業や学校行事が行われる場合、当館も臨時に開館することがあります。詳細はお問い合わせください。)
- 入館料 無料

交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩15分
 駅南口を出て、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館の建物の位置は、校門の案内所でお尋ね下さい。

(来館者用駐車場はありません。また校内での園児・児童・生徒・学生の安全のため、お車でのお来館はご遠慮下さい。)

博物館ニュース SHÛ No.40

2013年3月20日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

www.tamagawa.jp/research/museum/

『SHÛ』とは『集』、さまざまな「集められたもの」をめぐり、多くの人々の「集いの場」になることを目指して名づけたものです。